

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立松阪商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		<p>「生徒・教職員が誇りをもち、保護者・地域から信頼される学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 商業高校としての専門性と先進的な学びを融合させ、未来志向の力を引き出す教育活動を推進します。 ▶ 生徒一人ひとりの自己実現を図り、社会に貢献できる人材の育成をめざします。
(2)	育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿)	<p>○その時、その場で、どのような行動が適切であるかを判断し実行する自己指導能力を備え、自ら課題に気づき、解決に向けて考え、働きかける行動力を高め、卒業後の次のステージに臨もうとする生徒。</p> <p>○探究活動をはじめ様々な教育活動を通して、次の「6つの力」を養い、社会の一員として自立し、多様な価値観を認め合いながら他者と共により良い未来を創る意欲を持った生徒。</p>
	【グラデュエーション・ポリシー】	<p><育成をめざす「6つの力」></p> <p>「気づく力」 「自分で考える力」 「行動する力」</p> <p>「質問する力」 「表現して伝える力」 「ねばり強く取り組む力」</p>
	ありたい教職員の姿	<p>○育成をめざす「6つの力」を基軸とした授業改善に取り組み、生徒の学力・進路の保障に責任を持つ教職員</p> <p>○同僚性を構築し、生徒に寄り添ったきめ細かい指導をチームとして取り組む教職員</p> <p>○生徒のことを権利の主体として捉え、生徒と共に学ぶ姿勢を持つ教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心に過ごせる環境の中で、充実した学校生活と進路の実現の両立を望んでいる。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安全安心な学校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。 ・少人数制や習熟度別指導を活かして、個別最適な学びへの対応を求めている。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の公共心とマナーが育成され、商業高校としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な教育環境 ・進路希望を実現するための支援 ・生徒の状況に応じた個別最適な学びへの対応 ・学校教育活動等の迅速な情報提供 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力面、生徒指導面での中高の連携 ・外国人につながるの生徒への一層の指導と支援 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、地元企業や事業所との連携の推進 ・学校教育活動等の積極的な情報発信 	<p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針に対する理解と協力 ・家庭での生活習慣や進路選択への積極的なサポート ・教育活動に必要な情報提供への迅速な対応 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の専門性や特色を理解したうえで生徒の活躍の場の提供

(3)前年度の学校関係者評価など		<p>○以下のことについて期待する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業シート（アンケート）等を実施し、授業改善を継続させる ・社会の変化に応じた生徒指導の在り方を検討する ・普通科では体験できないような取組（体験的な活動）を追求する ・外国につながるのがある生徒の活躍の場を広げ、国際ビジネス科の特色化を進める ・地元就職率を維持させつつミスマッチを起こさない進路指導を進める
(4)現状と課題	教育活動	<p>○三菱みらい育成財団の助成も活用した「三重丸モデル」や「ビジネス探究プログラム」をもとに、生徒の主體的な学びに向けた取組が進行しているところである。</p> <p>○単位制の利点を生かし少人数や習熟度講座で学習者へのきめ細かな指導を行っている。基礎力診断テストや学習動画の活用等の一層の工夫が必要である。</p> <p>○国際教育資源（海外語学研修や台湾の姉妹校連携）などを活用し、特に国際ビジネス科の学びの充実と特色化が必要である。</p> <p>○専門性を有する教職員による教育活動が推進され、商業高校としてスペシャリストを育成するノウハウを備えている。情報ビジネス科を引き継ぐ指導として DX ハイスクールも活用している。</p> <p>○いじめの防止及び早期発見に努め、生徒が自分や他者を大切にできる人権意識を育成し、安全安心な学校生活を送ることができるように取り組まなければならない。</p>
	学校運営等	<p>○地域とのつながりが深く、伝統ある商業高校としての地元企業・自治体・関係機関とのネットワークを活かした教育活動が展開されている。</p> <p>○三重丸モデルや DX ハイスクール事業等の教育的挑戦が軌道に乗っている。</p> <p>○教職員には専門性の高い人材が多く在籍しているので、ICT や DX を活用するための実践的研究を進める必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】</p>	<p>1 「探究活動とキャリア教育の一体化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の系統だった探究活動を通じて、生徒が地域・社会とつながる学びを継続的に行える体制を整える。特に、自己指導能力・協働力を育み、進路実現を目指すキャリア観を養う。 <p>2 「資格取得と進路実現の好循環づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定や資格の上位級取得と、進学・就職との連動を強化する。 ・1年次から計画的な取得支援体制を整備し、「学びが進路につながる」実感を生徒に与える。 <p>3 「ICT や DX を活用した学びの追求」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DX ハイスクール事業を推進し、商業・情報教育のアップデートを図る。 ・ICT 活用授業や生成 AI 等の活用を通じて、生徒の情報活用能力・課題解決能力を高める。 <p>4 「国際教育の深化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾姉妹校等との交流を軸に、国際ビジネス科の取り組みをはじめとした国際教育を深化させる。 ・外国につながる生徒への教育支援体制を整備し、多様性を尊重する教育環境を実現する。 <p>5 「人権尊重と共生社会の担い手の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を計画的に推進し、生徒が「多様性・包摂性」を理解し、学校生活においても互いを尊重できる力を育てる。
<p>学校運営等</p>	<p>1 「組織としての教育力向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌・学年・教科の壁を越えた「チーム学校」としての体制を確立させる。 ・教員の専門性を活かしつつ、教科横断的な実践や探究支援の協働を実現する。 <p>2 「働きやすい職場づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を推進し、校務分掌の見直し、校務 DX（ペーパーレス、情報共有、AI 活用等）による業務改善を進める。 ・年間 360 時間超・月 45 時間超の時間外労働ゼロを維持しつつ、教育の質を担保する体制を確立。

	<p>3 「信頼される学校づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づいた不祥事の未然防止を進める。 ・オープンスクール、Web、パンフレット等を通じて、学校の魅力・成果をわかりやすく発信する。
--	---

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】</p>	<p>○将来を見据えて、自らの進路を切り拓こうとする生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標に向けて、計画的に学び、自らの進路を切り拓こうとする意欲がある。 ・社会や地域とつながりながら、自己実現と社会貢献を両立しようとする意志がある。 <p>○学びに対して前向きで、挑戦する意欲をもった生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業やビジネス、情報、英語などの学びに関心をもち、資格取得や探究活動に積極的に取り組もうとする姿勢がある。 ・失敗をおそれず、粘り強く挑戦し続ける力を大切にできる。 <p>○基本的な生活習慣を身につけ、仲間と協働できる生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや時間を守るなど、社会の一員として基本的な生活態度が身につけている。 ・他者の考えや文化的背景を尊重し、共に学ぶことの価値が理解できる。 ・学級活動や行事、クラブ活動などを通して仲間と協力し、主体的に行動できる。
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
規律ある行動の徹底 (総務)	【活動指標】 ・ 儀式、集会を通して集団の一員としての自覚を深めさせ、迅速な整列・行動を周知徹底させる。	(年度末および適宜記載)	※
防災訓練の実施 (総務)	【活動指標】 ・ 防災訓練を年1回以上実施し、集団行動の重要性を認識させ、危機管理や防災についての意識の高揚を図る。		
保護者アンケートの実施 (総務)	【活動指標】 ・ 保護者対象アンケートを実施し、分析・考察を行い、本校教育活動に活かす。 【成果指標】 ・ アンケート結果を全職員に共有して教育活動の改善に生かす。		
家庭学習習慣の定着(教務)	家庭学習時間調査の実施 【目標】 家庭学習の大切さを意識づけ学習習慣の定着を図る。 【取組内容】 1 学期・2 学期それぞれで面談週間を設ける。面談を通して生徒自身が生活時間を振り返ることで、学習時間の確保につなげられるようにする。 【活動指標】 担任による、年間2回以上の個別面談の実施率100%。 【成果指標】 家庭学習時間が1日あたり1時間以上の生徒の割合を、70%以上にする。		
授業アンケートの実施 (教務)	授業アンケートの実施 【目標】 生徒に「授業アンケート」を実施して、授業のさらなる改善に活用する。 【活動指標】 授業アンケート実施率100%を目標とする。 【成果指標】 「授業の理解度」の肯定意見を80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を80%以上にする。		
国際教育 (研究・人権)	(1) 外国につながる生徒と日本の生徒が、相互に学び合える学習環境を構築する 【活動指標】		

	<p>① 外国につながる生徒が、日本語による授業を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、言語的学習支援を行う。</p> <p>② 国語科、商業科において取り出し授業を実施する。</p> <p>③放課後等の日本語学習を実施する。</p> <p>(2) 国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する教育を展開する</p> <p>① 台湾 新北市立三重高級商工職業高校との交流を促進するため、国際ビジネス科生徒を中心にオンライン交流会を実施する。</p> <p>② 海外研修旅行について生徒アンケートを実施し、希望者が多い場合は実施する。なお、令和7年度は海外研修旅行のローテーションに従い、オーストラリア研修になる。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①、②生徒の海外事情への興味・関心を高める。</p>		※
<p>探究的な学習の推進(研究)</p>	<p>(1) 学校全体で探究学習を推進する。 「三重丸モデル」を構築する (三菱みらい育成財団カテゴリー1事業)</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 外部助言者(大学教員、企業関係者等)を招聘し、中間発表会(校内ポスターセッション)と成果発表会(校外文化会館)を実施する。</p> <p>② 3年次 課題研究において「生徒立案型」の探究学習を定着させる。</p> <p>③ 学習効果測定のため、AiGROWを実施する。</p> <p>④ 「三重丸モデル」が今後自走できるプログラムとして本校に定着できるよう検討する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 外部のビジネスプランコンテスト等に参加し、外部からの評価を受ける。</p> <p>② 学習効果を分析し、全職員で共有する。</p> <p>③ 方向性を示し、全職員で共有する。</p> <p>(2) ビジネス探究プログラムを構築する</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 県内独立商業4校が各校で作成した、ビジネス基礎探究プログラムを実施する。</p> <p>② 2年次マーケティング・ビジネスコミュニケーションでビジネスプランを立案する探究学習を実施する。</p> <p>③ 3年次課題研究において、生徒主体で研究できるよう支援する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①、②、③アンケートを実施し、学習効果を分析する。</p>		◎
<p>ICT教育(研究)</p>	<p>文科省DXハイスクール事業を推進する</p> <p>【活動指標】</p>		◎

<p>生徒指導 (生徒指導)</p>	<p>① 高度な情報教育を学習するための ICT 機器を整備する。 ② 教務部、商業科と連携し、教育課程の整備を支援する。 ③ ②の実現のために、外部教育機関等と連携する。</p> <p>頭髪服装指導を実施し、また登下校指導や校外指導の実施により、松商生として誇れる「見た目」やマナーの向上を自発的に行うことができるような意識付けを図る。</p> <p>【活動指標】 日常的にしっかりとした制服の着こなしや校則を守ることのできる、また社会的なマナーを身につけられる生徒を増やすため、講話や通信等を活用した啓発に力を入れる。</p>		
<p>キャリア教育 (進路指導)</p>	<p>【活動指標】 進路実現を目指すキャリア観を養うとともに、進路保障をするための学力を身に付けさせる。</p> <p>① 外部講師等を活用した進路ガイダンスや進路講話を全学年各学期に1回程度実施する。 ② 1、2年生は頭髪服装指導の待機時間を利用して「進路ノート」を活用し、キャリア・パスポートを毎月1回程度継続的に行う。 ③ 1、2年生は基礎学力の定着や向上のため、「実力診断テスト」を年2回行う。</p> <p>【成果指標】 ① 進路ガイダンスを通して、生徒が進路先を決定できるよう体系的に実施する。 ② 「進路ノート」に書き込んだ内容を生徒と担任が共有し、個人面談や三者懇談会等で活用する。 ③ 1、2年生は「実力診断テスト」の結果を業者と連携をして分析し、蓄積されたデータについて個人面談等を通して進路指導に役立てる。また教科とも情報を共有して授業力向上につなげる。さらに、業者による進路講演会を年1回程度開催する。</p>		
<p>保健指導の充実 (保健)</p>	<p>【活動指標】 ①健康診断と応急処置及び日常的な保健指導を行い、心と体の自己管理ができる力を育む。 ②感染症の予防に取り組む。 ③心身の健康教育と、教育相談による心のケアの充実を図る。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを年37回実施する。 ・高校生活スペシャルマネージャーによるカウンセリングを年12回実施する。 ④男女の特性や多様化する性への理解を深める。 ・性に関する講演会を各学年、年1回実施する。</p>		
<p>人権教育推進 (人権教育推進)</p>	<p>人権教育推進計画に基づき、HR活動や教科学習、講演会などをとおして人権尊重の精神を培い、周囲にある課題に気づき人権意識を持って自立した行動のできる生徒を育成する。</p>		

<p>図書館利用教育（図書）</p>	<p>【活動指標】 人権 LHR 活動や人権講演会を実施し、生徒の気づきや行動へのきっかけとする。通信の発行等による学びのフィードバックの機会を設け、人権意識の定着を図る。</p> <p>①学校図書館の利用の意義を理解し、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるような基礎的知識の習得をめざす。 ②図書委員会活動を活性化させ、親しみやすい学校図書館をめざす。</p> <p>【活動指標】 ①新入生オリエンテーションや授業での図書館利用時に、有効的な図書館の活用方法を伝えていく。 ②図書委員会による「図書館通信」の発行、ショーウィンドウ展示、文化祭への参加等を行う。</p> <p>【成果指標】 ①授業での図書館使用時間が年間 50 時間以上。 ②図書委員会による「図書館通信」を年間 5 回程度発行。</p>		
<p>生徒会活動の充実（生徒会）</p>	<p>(1) 社会状況・生徒たちの状況に対応しながら、生徒主体で生徒会活動と行事を企画・運営していく。 (2) クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>【活動指標】 (1) 生徒会活動を通じて自主自律の精神・仲間とのつながりを培う場と機会を創出し、すべての生徒の学校生活の充実につなげる。 (2) 体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等の学校行事の企画・運営に生徒が主体的に取り組む。 (3) 生徒会冊子「松籟」で活動報告成績等の紹介を行う。</p>		
<p>キャリア教育（商業科共通）</p>	<p>(1) 探究学習モデル『三重丸モデル』で掲げるアントレプレナーシップを実現するため、商業科のすべての年次で「探究学習」を実施し、関係する地域・企業、行政、大学・専門学校等との連携を深めた商業教育を展開する。</p> <p>【活動指標】 ①1年次「ビジネス基礎」において、アントレプレナーシップに触れビジネスモデルを考える講演会やワークショップを実施する。 ②2年次「マーケティング」「ビジネスコミュニケーション」において、ビジネスプランの設計に取り組み、コンテスト等に参加する。 ③3年次「課題研究」において、生徒が設定した研究テーマに関連した、産業 DX に関わる講演会やワークショップを実施する。 ④3年次「課題研究」において、学校外部から助言者を招聘し、中間発表会と成果発表会を実施する。 ⑤DX ハイスクール事業において、環境整備や学校設定科目「デジタルリテラシー」の準備を進める。また、「情報処理」や「課題研究」等の連携に取り組む。</p>		

<p>教育課程 ・学習指導 (商業科共通)</p>	<p>【成果指標】 ①、②、③：年間10回以上の実施を目標とする。 ④：年間2回程度の課題研究発表会の実施を目標とする。 ⑤：環境整備と年間3回程度の推進委員会の実施を目標とする。</p> <p>(1) 授業において外部人材を活用することで、生徒のスキルアップに努める。</p> <p>【活動指標】 ①高専連携を活用した授業を推進する。 ②外部講師を活用した授業を推進する。</p> <p>【成果指標】 ①高専連携の授業を商業科目において2科目以上、各3回以上の実施を目標とする。 ②外部講師による授業を商業科目において2科目以上の実施を目標とする。また、学年や商業系クラブ活動において、起業やビジネスに係る講演会およびワークショップを年3回以上の実施を目標とする。</p> <p>(2) 授業をとおして、ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着に努める。</p> <p>【活動指標】 ①1年次「簿記」「情報処理」の基本的な知識と技術の定着を図り、2年次以降の上位資格取得につなげる。 ②全国商業高等学校主催の検定試験合格者数の増加を目指すだけでなく、公的機関や民間主催の検定試験に積極的に挑戦する。</p> <p>【成果指標】 ①1年次に受験予定の全商検定合格率70%以上を目指す。 ②商業系の各種検定試験の合格者について、昨年度の学年比を上回ることを目指す。</p> <p>(3) Chromebook やプロジェクタなど ICT 機器を活用した授業を推進する。</p> <p>【活動指標】 ①各学年の商業科目において、ICT 機器を活用した授業を実施する。</p> <p>【成果指標】 ①ICT 機器をすべての科目において、授業時間数の50%以上で活用を目指す。</p>		
<p>教育課程・学習指導 (国際ビジネ</p>	<p>1年次の基礎基本の指導を大切にし、ビジネスに関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかる。商業に係る全商検定だけでなく、「GTEC」検定高スコアや実用英語技能</p>		

ス科)	<p>検定準2級以上の取得を目指す。また、1年次ではビジネス基礎、2年次ではビジネスコミュニケーションを中心に探究学習を展開し、全教科と連携しながら3年次の課題研究につなげていく。</p> <p>【活動指標】 生徒の興味・関心を持たせることを目指した授業を展開するために、Chromebook やプロジェクタなど ICT 機器を活用した授業を推進する。また、商業の資格と英語の資格を取得することで生徒の進路選択に活用する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 1、2年次に展開するすべての商業科目において、Chromebook または Google classroom を活用した授業を展開する。</p> <p>② 1、2年次商業科目において、Chromebook など生徒一人1台端末で活用できるデジタルコンテンツを研究し、近い将来に活用できるよう努める。</p> <p>③ 外国人生徒に対応するための教材にルビを付けるなど、ユニバーサルデザインの授業作りの考えに基づいた授業作りに努める。</p> <p>④ 1年次に受験予定の全商・商業系検定の合格率80%以上を目指し、2年次では上位の商業系検定の合格率50%以上を目指す。</p> <p>⑤ AiGROWの指標として測定をする16項目のコンピテンシー指標を見る。</p> <p>⑥ 姉妹校提携している「台湾 新北市立三重高級商工職業学校」とのオンラインによる交流を実践する。</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
校務連携 (総務)	<p>【活動指標】</p> <p>① 分掌、教科、事務と連携を図り、日常的な情報共有、共通認識の形成を通じて、円滑な教育活動の推進に努める。</p> <p>② 「VIVA 松商」を実施し、PTA 本部役員と生徒会役員による意見交流を通じて、教員、保護者、生徒の連携を進める。</p> <p>③ 「VIVA 松商」の成果を検証し、結果を共有する</p> <p>④ オンラインによる朝の打ち合わせ、年間行事計画の情報共有など、校務の ICT 化を推進する。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
学校教育活動 の情報発信 (総務)	<p>【活動指標】</p> <p>① 学校関係者(保護者・中学生・地域等)に対して、本校の教育活動、部活動、進路等について積極的に情報を提供する。</p>		◎

<p>授業改善の 取組（教務）</p>	<p>②高校生活入門講座（オープンスクール）、授業公開を充実させる。 ③学校 web の更新を積極的に行い、広報活動の充実を図る。 ④ 生徒、保護者、教職員に対して、きずなネットを通して適切な情報提供を行う。また、きずなネットを活用した緊急時における安否確認手段を整備する。</p> <p>授業ノウハウの共有</p> <p>【目標】 教員が授業の工夫や授業改善を公開、その工夫や改善方法を共有する。</p> <p>【取組内容】 ① 年度当初に授業改善設定シートを作成してデータを共有する。 ② 年度末に、生徒対象の授業アンケートの結果も活用して成果をまとめ、次年度の自身の授業改善につなげる。またその成果を全体で共有する。</p> <p>【成果指標】 授業改善に関する取組みや研究を行った教員の割合が90%以上</p>		
<p>国際教育 （研究）</p>	<p>・国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する教育を展開する。</p> <p>【活動指標】 ・国際交流委員会を複数回実施する。</p>		
<p>探究的な 学習の推進 （研究）</p>	<p>(1) 「三重丸モデル」を組織的に運営するため、分掌、各学年との調整を図る</p> <p>【活動指標】 ・研究部会を複数回実施する。</p> <p>【成果指標】 ・検討内容を全職員で共有する。</p> <p>(2) 産・官・学との連携を推進する</p> <p>【活動指標】 ① デジタル田園都市国家構想「三重広域連携モデル」に参加し、参加企業と連携してこの事業を推進する。 ② （一社）実学実践探究舎、（一社）未来の大人応援プロジェクト等、アントレプレナーシップに取り組む外部団体と連携する。 ③ 松阪市、松阪商工会議所等と連携する。 ④ 皇學館大学、高崎商科大学、三重大学と連携する。</p>		◎
<p>ICT教育 （研究）</p>	<p>(1) 文科省DXハイスクール事業を推進する</p> <p>【活動指標】 ・三重大学地域創造教育センターと連携した授業を推進する。</p> <p>(2) AiGROW を用いて生徒の変容を分析し、「三重丸モデル」の検証と改善を行う</p>		◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習効果測定のため、AiGROWを複数回実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習効果を分析し、全職員で共有する。 <p>(3) 校内NWの円滑な運用と情報共有を推進する</p> <p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラウドサービスやアプリケーションを活用した情報共有の推進、会議のペーパーレス化など、校務DX化を推進し、校務の効率化を図る。 ② BYODやSNSの取り扱いなど、情報セキュリティや個人情報情報の取扱いについて注意喚起する。 ③ 生成AIを校務のDX化を関係づけられるか検討する。 <p>【成果指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ③ 検証結果を全職員で共有する。 		
<p>現職教育の 推進 (研究)</p>	<p>国際教育、探究的な学習、ICT教育に関わる現職教育を推進する</p> <p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一人1台端末に関わる研修。 ② 外国につながる生徒の指導に関する研修。 ③ 学力測定に関わる研修。 ④ DX、AI、オープンデータの取扱いに関する研修。 ⑤ 探究学習の指導に関わる研修。 ⑥ 個人情報の取扱いに関わる研修。 		※
<p>組織としての 生徒指導 (生徒指導)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒指導におけるチームワーク力を向上させる。 ② 特別指導、頭髪服装、交通マナー、特別アルバイトなどの指導における情報共有を行い、共通認識を持って生徒に対応する。 <p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①② 課題を有する生徒に対する共通認識を多くの教職員が持ち、組織力の向上を図るために、生徒指導部、学年団、各分掌との情報共有を図る。 		
<p>進路指導を 教職員全体 で取り組む 体制づくり (進路指導)</p>	<p>【活動指標】</p> <p>就職希望者、進学希望者ともに大半の生徒が面接試験を受けるため、学校全体で面接指導に取り組む体制を整える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 3年生全員に入退室を重視した集団面接指導を行う。 ② 就職希望者に対して個人面接指導を行う。 ③ 進学希望者に対して個人面接指導を行う。 <p>【成果指標】</p> <p>面接評価シートを利用して、面接指導教員と生徒、担任が面接練習内容の情報を共有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①～③について、年1回以上実施する。 		
<p>保健部の活動 (保健)</p>	<p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①心身の健康について支援の必要な生徒の情報共有を行う。 ②ほけんだより、掲示物等により健康増進のための情報を 		

<p>人権教育研修 (人権教育推進)</p>	<p>発信する。 ③教職員向けの研修を実施する。 ・エピベン研修を実施する。 ・教育相談に関する研修を実施する。 ④校内の安全・衛生を向上させるため環境整備を行う。 ⑤校内の環境美化活動とごみの分別を徹底する。</p> <p>【成果指標】 ③教職員向け教育相談研修での満足度70パーセント以上を目指す。</p> <p>教職員対象の研修機会を充実させる。</p> <p>【活動指標】 人権教育推進計画に基づき校内研修を企画するとともに、校外研修の案内および参加の奨励を行う。</p>		
<p>学校図書館の 情報提供 (図書)</p>	<p>各教科との連携を密にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる、教育支援の充実に努める。</p> <p>【活動指標】 ニーズに基づいた資料提供を行うとともに、レファレンスサービスを行う。</p> <p>【成果指標】 予約、リクエストによる資料提供冊数が年間80冊以上。</p>		
<p>地域連携 (商業科)</p>	<p>地域に開かれた商業高校を目指し、地域や地元企業の現状を捉え要望に応える商業教育を展開する</p> <p>【活動指標】 ①校外学習を実施する。 ②近隣の小学校を対象にプログラミング教室を実施する。</p> <p>【成果指標】 ①全科目で年間30回以上の実施を目標とする。 ②課題研究において、1回以上実施する。</p>		
<p>教員研修 (商業科)</p>	<p>商業に係わる研修に参加し、教育活動に還元する。</p> <p>【活動指標】 ①三重県高等学校商業教育研究大会、東海地区高等学校商業教育研究大会に参加し、教育活動に還元する。 ②ビジネス探究に係わる商業科教員対象の校内研修を実施する。 ③大学教員等による研修会に参加し、授業に還元する。</p> <p>【成果指標】 ①・②：商業科教員の半数以上の参加を目指す。 ③：年間2回以上の実施を目指す。</p>		
<p>組織運営 (国際ビジネス)</p>	<p>国際ビジネス科は、英語を中心とした一般教科と商業の双方を中心的に学習する学科であることから、「英語の4技</p>		

スロ)	能5領域」の育成を目指した授業を展開しつつ、地域社会やグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。 【活動指標】 ① 商業科目においてはすべてティームティーチングを実施する。 ② 国際ビジネス科の運営を円滑に行うため国際ビジネス科委員会で学科の特色化を進める。		
働きやすい職場環境づくり (管理職)	【活動指標】 ① 学校行事や既存の取組を、必要性を十分検討しながら積極的に実施していく。 ② 定時退校日に退校できた職員の割合を90%以上にする。 ③ 部活動休養日を週1日設定し、休養日取得率を100%にする。 ④ 放課後に開催する会議のうち60分以内に終了する会議の割合を80%以上にする。 ⑤ 年360時間を超える時間外労働者数を0人にする。 ⑥ 月45時間を超える時間外労働者数を0人にする。 ⑦ 一人当たりの年間休暇取得日数を10日以上にする。 ⑧ 一人当たりの月平均時間外労働を25時間以内にする。		
不祥事根絶 (管理職)	【活動指標】 ① 学校信頼向上委員会を中心に、コンプライアンスミーティングを実施し事例に学ぶ。 ② 職員会議ごとに時機に応じた注意喚起を行う。		
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)